

馬産地ライター村本浩平の 2026 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑

Vol. 4 | 9.30[水] ▶ 11.5[木] 開催分



※9月4日時点の情報です。

9.30
[水]

テオーケインズ賞
【サンライズカップ〔H1〕】

テオーケインズ(牡9歳)は、2024年シーズンからアロースタッドで供用されています。現役時はGIチャンピオンズC(ダート1800m)、JpnI帝王賞(ダート2000m)、JpnIIBCクラシック(ダート2000m)など、25戦10勝の成績を残しています。ダート重賞5勝をあげた実績はさることながら、2歳時から6歳時の引退まで、掲示板を外したのは3度だけという安定したレースを続けていきます。ダート界のトップサイアーである、シニスターミニスターの後継種牡馬としても生産界からの注目度は高く、現1歳を迎えた初年度産駒は、今年のセリ市場でも軒並み高い評価を受けています。

10.1
[木]

イスラボニータ賞
【ネクストスター門別〔H1〕】

イスラボニータ(牡15歳)は、2018年シーズンから社台スタリオンステーションで供用されています。現役時はGI皐月賞(芝2000m)など25戦8勝の成績を残しています。皐月賞を含めて芝の重賞で6勝。そのうち、2度に渡ってコースレコードを更新したスピード能力は産駒にも伝えられており、初年度産駒から芝の重賞勝ち馬を4頭送り出しました。今年もアルトラムスが毎日杯を優勝しています。近年ではダートでの活躍馬も輩出され、昨年のレディスプレリユードをビヨンドザヴァレーが勝利しました。昨年の総合リーディングサイアーランキングは31位となっています。

10.8
[木]

タワーオブロンドン賞
【グランシャリオクイーンズ〔H3〕】

タワーオブロンドン(牡11歳)は、2021年シーズンからダーレー・ジャパンスタリオンコンプレックスで供用されています。現役時はGIスプリンターズS(芝1200m)など18戦7勝の成績を残しています。2歳時から芝の短距離重賞で頭角を現すと、4歳時にはGII京王杯スプリングCと、GIIセントウルSで2度のレコードを樹立。その勢いのままに臨んだスプリンターズSでもスピードの違いを見せつけます。初年度産駒となるパンジャタワーが、昨年のGINHKマイルCを優勝。今年のGIII函館2歳Sもフェリチタが勝利と、現役時の父を彷彿とさせる活躍馬が誕生しています。

10.22
[木]

ブリックスアンドモルタル賞
【ブロッサムカップ〔H2〕】

ブリックスアンドモルタル(牡12歳)は、2020年シーズンから社台スタリオンステーションで供用されています。現役時はGIブリーダーズカップターフ(芝12.0F)、GIアーリントンミリオンS(芝10.0F)など、13戦11勝の成績を残しています。怪我から復帰した5歳時には6戦6勝、うちGI5勝という圧巻のパフォーマンスで、その年のエクリプス賞の年度代表馬と最優秀芝牡馬にも輝きます。初年度産駒から芝とダートの双方で重賞勝ち馬を送り出しており、昨年のJpnIIBCレディスクラシックではアンモシエラが優勝。今年もゲルチュータルがGII日経新春杯を勝利しています。

11.3
[火・祝]

ピクシーナイト賞
【JBC2歳優駿(JpnIII)】

ピクシーナイト(牡8歳)は、2024年シーズンからブリーダーズ・スタリオン・ステーションで供用されています。現役時はGIスプリンターズS(芝1200m)など14戦3勝の成績を残しています。3歳初戦となるGIIIシンザン記念で初重賞制覇をあげると、3歳夏からは芝のスプリント戦線に戦いの場を移して、GIII CBC賞とGIIセントウルSで、いずれも2着に入着します。一線級の古馬が揃ったスプリンターズSでは、3歳馬としては14年ぶりとなる勝利をあげます。供用初年度に125頭だった種付け頭数は、2年目に176頭に増加。今シーズンも142頭に配合を行いました。

11.3
[火・祝]

サンダースノー賞
【北海道2歳スプリント〔H1〕】

サンダースノー(牡12歳)は、2020年シーズンからダーレー・ジャパン・スタリオンコンプレックスで供用されています。現役時はGIDバイワールドC(ダート2000m)を連覇するなど、24戦8勝の成績を残しています。2歳時にGIクリテリウムアンテルナショナル、3歳時にはGIジャンプラ賞と芝GIでも2勝と、現役時は「二刀流」の活躍を見せていました。種牡馬としてはダート適性の高さを産駒に伝えており、ナルカミが昨年のJpnIジャパンダートクラシック、テンカジョウがJpnIIエンプレス杯を優勝。昨年の地方サイアーランキングでは10位にランクインしました。

11.4
[水]

ソウルラッシュ賞
【道営スプリント〔H1〕】

新種牡馬

ソウルラッシュ(牡8歳)は、2026年シーズンからブリーダーズ・スタリオン・ステーションで供用されています。現役時はGIマイルCS(芝1600m)、GIDバイターフ(芝1800m)など、29戦9勝の成績を残しています。3歳時に芝マイル戦での適性を見出されると、連勝でGIIマイラーズCを優勝。その後も重賞で活躍を続けながら、7度目のGI挑戦となるマイルCSを勝利します。7歳時のドバイターフでは、世界最高の獲得賞金を得ていたロマンチックウォリアーを退けて、海外GI制覇も果たしました。供用初年度となる今シーズンは143頭の繁殖牝馬に配合を行いました。

11.5
[木]

タイトルホルダー賞
【道営記念〔H1〕】

タイトルホルダー(牡8歳)は、2024年シーズンからレックススタッドで供用されています。現役時はGI菊花賞(芝3000m)、GI天皇賞・春(芝3200m)、GI宝塚記念(芝2200m)など、19戦7勝の成績を残しています。3歳時のGII弥生賞で初重賞制覇をあげると、GI皐月賞では2着に入着。菊花賞では鮮やかな逃げ切り勝ちで最後の一冠を制します。4歳時には天皇賞・春、宝塚記念とGIを連勝しただけでなく、宝塚記念ではレースレコードも更新してみせました。初年度産駒は1歳を迎えており、今年のセレクトセール1歳セッションでは1億を超える取引馬も誕生しました。

今シーズンは特別競走4レースも
「スタリオンシリーズ競走」として開催!

●門別14回マスタリー賞

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャンプブリーダーズカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産牧場に種牡馬の翌年種付権利を副賞として贈呈する競走です。 ※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

